「波に千鳥図」〈前期展示:11月13日(火)まで〉
1900(明治33)年パリ万国博覧会に「天鵞絨(ビロード)友禅壁掛」にして出品し、名誉大賞を受賞した。「千鳥」の部分は日本画家が、背景の「海景」は洋画家が描き、竹内栖鳳がバランスをとり下絵を完成させた。女優サラ ベルナールが購入したという逸話のある作品。

「宇治川激流夜の景図」〈後期展示:11月15日(木)から〉
1904(明治37)年セントルイス万国博覧会に出品された「天鵞絨(ビロード)友禅壁掛」の大下絵。他に刺繍屏風、刺繍壁掛などを出品し、名誉大賞を受賞。谷口香嶠作とされている。所蔵する「明治年間刺繍参考画集」掲載の写真を参考にしたと考えられる。

１９００年前後、パリに起こったジャポニズムの波に乗り、こんなファンタジーが海を渡った。

1900年パリ万国博覧会に出品された「波に千鳥図 天鵞絨(ビロード)友禅壁掛」の下絵をはじめ、
輸出業の主流となった「美術染織作品」下絵の数々。日本の美と技を世界に示しました。

海外向け染織作品下絵展

～世界を魅了した高島屋の輸出染織品～

高島屋史料館

■〈前期〉10月1日(月)→11月13日(火)　〈後期〉11月15日(木)→12月25日(火)
■高島屋史料館(大阪市浪速区日本橋3-5-25/高島屋東別館3階)　■入場無料

Takashimaya

海外向け染織作品下絵展

～世界を魅了した髙島屋の輸出染織品～

■〈前期〉10月1日(月)→11月13日(火)
〈後期〉11月15日(木)→12月25日(火)

■髙島屋史料館（大阪市浪速区日本橋3-5-25/髙島屋東別館3階）

■入場無料

明治大正期の髙島屋は海外貿易を目指した染織作品を生産していました。当時は社内に画工室(デザイン室)を設け、美術学校出身者や雇い入れた画家が、「海外向け」に衝立や壁掛けなど室内装飾用の染織作品の下絵を描いていました。実際にはどうやって「海外向け」の作品を制作したのでしょうか?
所蔵資料にある「刺繍参考画集」を見るとその謎が解けます。当時、髙島屋はロンドンに支店を持っていましたが、そこで収集した写真やグラビア印刷を日本に送り、それを元に作品を作っていたようです。
また海外の人たちに日本の風景や文化を伝えるために、国内の有名な場所や寺院などを画家たちに描いてもらい、それを元にして下絵を制作していたようです。このように、日本画家の描いた「下絵」が大きな役割を果たしたことがわかります。
今回は所蔵する下絵や資料から輸出染織作品を考察します。

監修:京都女子大学教授　廣田孝氏

「美術染織品と下絵」

京都という観光地で創業し、多くの外国人がお土産とした美術染織品。
そのほとんどは商品として売却され所蔵していません。これらは「製品」と「下絵」が現存する貴重な作品です。

〈前期〉(左)「桐に鳳凰(下絵)」岸竹堂(明治中期)
(右)「旭陽桐花鳳凰図(友禅)」村上嘉兵衛

〈後期〉「南瓜豆に鶏図(下絵)」
今尾景年

「畑に遊ぶ鶏図(友禅)」(明治中期)
村上嘉兵衛

「国内外の博覧会に出展し、輸出、貿易業へと発展」

1877(明治10)年の京都博覧会に出展して以降国内外のさまざまな博覧会に出展し、その技術の高さから数々の賞を受賞しています。

〈通期〉「波上飛雁」
1904(明治37)年セントルイス万国博覧会に出品した天鵞絨(ビロード)友禅壁掛の下絵

〈通期〉「柳に鷺鳥図」谷口香嶠
セントルイス万国博覧会パンフレットに掲載されている作品の下絵

「セントルイス万国博覧会パンフレット」
出品目録が掲載されています

「髙島屋館」
1910(明治43)年 日英博覧会で独自のパビリオンを出店

表彰状

「名誉大賞受賞」
1910(明治43)年
日英博覧会で飯田新七の名で名誉大賞を受賞

「貿易部アルバム」
明治20年貿易部を設置。
リヨン(明治32年)、ロンドン(明治39年)に出張所を開設する。当時カタログとして使われていたと思われます

髙島屋史料館のご案内

〒556-0005
大阪市浪速区日本橋3-5-25
髙島屋東別館　南側入口3階
TEL(06)6632-9102
FAX(06)6632-9195
午前10時→午後5時(入場は4時30分まで)
日・水曜日・年末年始他展示替日休館

髙島屋史料館

Takashimaya